



私もう一度立ち上がった日



国	籍	インド
職	種	鋳造
実習実施者		株式会社藤田製作所
監理団体		製造産業技術協同組合

ムトゥラジ カンナン
MUTHURAJ KANNAN

私は南インドのふつうの家庭にうまれました。私はあまり話すタイプではありませんでしたが、私の心に何が起きているのかを感じ取ってあたたかく見守ってくれる人がいました。それは祖母です。小さいころ、夜寝る前に祖母はよく物語を話してくれました。ある時、広島で被爆し、白血病にかかりながらも奇跡を信じて折り紙でツルを作り続けた貞子という少女の話をしてくれました。そして希望があるなら手を止めてはいけないと言いました。私はその時は祖母の言った言葉の意味を深く理解していませんでした。

学校を卒業してから私の人生は混乱し始めました。友達の前に進んでいくのに、私はどこへ進めばいいのかわからず、立ち止まっていました。家では話すことも減り、何にも興味がありませんでした。努力しようという気持ちも少しずつなくなっていきました。

そんな時、祖母だけが私を気にかけてくれました。私が黙っていると祖母は静かに言いました。「立ち止まってはだめだよ・・・ゆっくりでもいいから進みなさい。」

しばらくして祖母の体調が悪くなりました。

お見舞いに行った時に、祖母はまた静かに言いました。「立ち止まってはダメだよ。あなたはもっと上へ行く・・・。」これは祖母が私に言った最期の言葉でした。数日後、祖母は亡くなりました。

それから私はさらに無口になりました。自分が何をしたいのかわからないのです。

そんな時に子供の頃に聞いた、折り紙のツルを作り続けた少女の話を思い出したのです。病気でツルを折り続けた少女。その記憶が私にもう一度挑戦する勇気をくれました。

日本での新しい職場、新しい言葉、新しい習慣はどれも簡単ではありませんでした。時には無理だということもありました。でも職場の人は一つ一つていねいに教えてくれました。そして祖母が言った「立ち止まてはいけない。」この言葉が私を前へ進めてくれたのでした。小さな変化が起きました。それがさらに勇気を与えてくれました。

インドの親に電話をした時、「あなた、すごく変わったね。」と言われました。自分が前に進んでいるのだと感じました。

私は特別な人間ではありません。南インドから来たふつうの人です。悩み、あきらめそうになります。その時、少女貞子の「折り紙のツル」の話と祖母の「立ち止まてはいけない」と言う言葉が私を前へと進めてくれます。

私の成功は私一人のためではありません。長い間苦勞してきた両親に応えることが私の使命です。だから何度打ちのめされても私は何度でも立ち上がります。いつか両親が「息子はやり遂げた」と笑顔で言ってくれる時のために。

今日も私は挑戦を続けています。ゆっくりでも手を止めずに進んでいきたいです。